

第5回 将来の首都東京にふさわしい水道施設の再構築を考える会 議事要旨

○ 委員からの主な意見

将来の首都東京にふさわしい水道施設の再構築のあり方について（報告書）への感想など

- ・ 東日本大震災があった2011年は、ある意味では時代の変曲点の年ではないか。経済性や効率性だけでなく、安全性や安定性といった水道が本来最も重視すべきことを改めて考えなければならない時代を迎えたと感じており、このようなことを従来よりも考慮した上で、次世代の水道を考えていかなければならない。
- ・ 水道は、目先の判断だけでなく、50年、100年先、場合によってはもっと先まで考えていかなければならない。水道は、無ければ生きていけない、まさに「命の水」であるため、都民にとっても国民にとっても重要な役割を果たさなければならない。
- ・ 今回、50年先、100年先のことをしっかり考えるという姿勢を打ち出せて良かったと思う。この提言は、実現が可能なもの、難しいものがあるが、これまで地道に100年間かけて水道を作ってきた水道局なら、実現できると信じて取りまとめた。
- ・ 世界の水道事業者のリーダーとして、東京水道が果たしていく役割は重要である。本報告書に掲げた考え方は、他の水道事業者の目標になると思う。今後は、これらの提言を都がどうやって具体的に事業化していくかが課題になる。時間がかかると思うが、数十年先、100年先を見据えて、具体化して行ってほしい。
- ・ 提言は8項目に分かれているが、それぞれの提言には関連があると思う。東京水道全体を見渡して、バランスのとれたシステム作りを心がけて頂きたい。全国には、目の前の実務で手いっぱいという事業者も多い中、長期的な視点で将来を見通すことができるのは東京水道ならではと思う。全国に先駆けた長期的な将来展望を、ぜひ東京から全国へ発信してもらいたい。
- ・ 今回、8つの提言をまとめたわけだが、これは目標であり、方向性であって、到達点ではない。到達点を考えるに当たっては、指標化というものも必要になってくるのではないかと。今後は、新たな指標、新たな到達点を考えながら、提言を具体化していく作業が重要と考えている。
- ・ これからこの報告書の内容を、事業の実行計画にどう盛り込んでいくのか、どう活かしていくかということが重要なことになってくると思う。日々の業務の積み重ねが、1年1年の業務の積み重ねにつながり、それが数十年先、100年先の結果につながるということを念頭において、今後も頑張ってもらいたい。
- ・ 首都東京の水が止まれば、困るのは都民であり、さらに世界の信用を失うことにもなりかねない。新しい概念が入っている今回の提言を実行し、先手を打ち続け、常に最善の事業運営を行って行ってほしい。